

No.4 駅周辺 まちづくりニュース

このまち、もっと好きになる。



発行日：令和8年3月

モノレールの延伸を見据えた（仮称）No.4 駅（以下「No.4 駅」）周辺のまちづくりを検討するため、地域のみなさまと武蔵村山市が協力し、協議会を実施しています。

このニュースでは協議会の様子をお届けします。

第6回協議会（最終回）を開催しました！

はじめに ...

令和8年3月14日（土）に第6回 No.4 駅周辺まちづくり協議会を開催し、活発な意見交換が行われました。

今回は協議結果の取りまとめとして、提言書の記載内容の確認を行いました。



意見交換 提言内容の確認

これまでの協議内容の取りまとめとして、事務局が作成した提言書（案）を基に、提言内容について確認を行いました。

これからの流れ

協議の結果は提言書に反映し、「No.4 駅周辺まちづくり協議会 提言書」として市長へ提出します。

また、市ホームページ上で公表します。

具体的な提言及び公表の時期については、令和8年4月中を予定しています。

意見交換

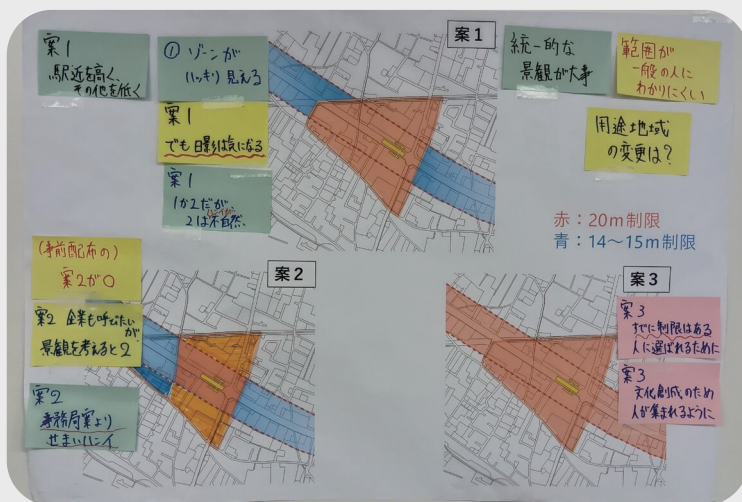
建物の高さ制限について

景観を維持するための建物の高さの制限について、事務局案を基に検討を行いました。

景観のために高さを制限したいという意見と、人が集まる場所とするために現在以上の制限をすべきでないという意見の両方が出されました。

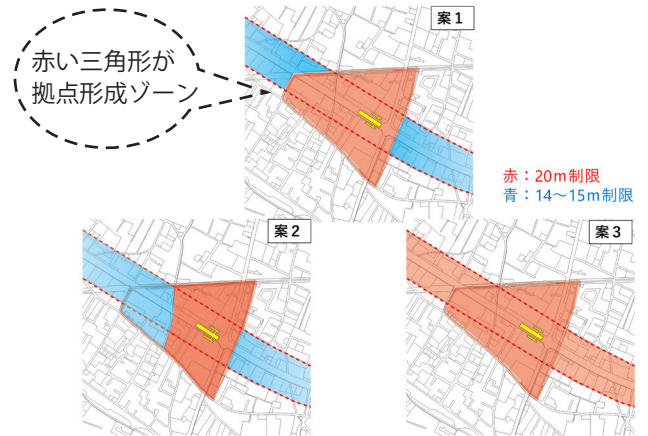
また、制限したいという意見の中でも、制限する範囲や、どの程度の高さ制限にするかなど様々な意見が取り交わされました。

事務局が提示した3案ともに意見が出され、意見交換の結果、高さの制限は案1または案2を基本とし、No.5 駅の動向も踏まえて検討することとしました。



建物の高さの制限について

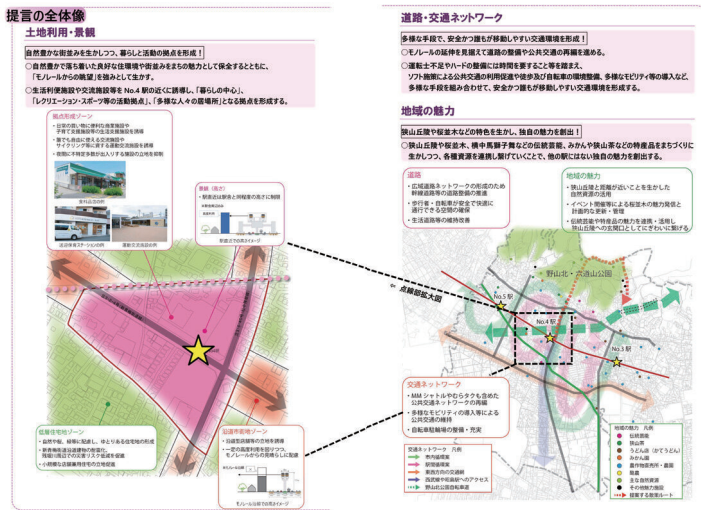
- 事務局案のとおり、拠点形成ゾーンは20mの制限、ほかはモノレールの車窓からの眺めを妨げないようにしたい。ただし、20mの建物が建ったときに北側の自転車道付近の日影が気になる。
- 20mの範囲をもっと狭くし、駅前のみとしてもよいのでは。
- まちの発展のために人が集まりやすくなるよう、規制は少ない方がよい。文化創生のためにもランドマークが必要。
- 建物の制限はNo.1駅からNo.5駅まで駅毎にマチマチでなく揃えた方がよい。
- 現在だけでなく将来のまち並みを考えつつ、狭山丘陵の緑や富士山など景観を保全するため、案1または案2で進めていきたい。



建物の高さの制限範囲（案）

提言内容の確認

- 交通ネットワークの維持のため、官民連携でのベストミックスの方策を検討してほしい。
- 自動運転技術については実現にはかなりの年月が必要なため、将来の方向性として期待するような表現が良い。
- 自然や緑が大事というだけでなく、モノレールを活かしながら将来を見据えた環境にやさしいまちづくりをしていく、という姿勢を示せるとよい。
- No.3駅の発展や瑞穂町のIT企業誘致などを踏まえ、通過駅にならないようなまちづくりをしたい。
- 東京都の計画で示されている「スポーツ・アクティビティ」についても触れるとよい。



提言の全体像（案）

協議会の感想

協議会の最後に、委員の皆様にも全6回の感想と御意見を伺いました。

- 人の目に優しく、空気をよくし、豪雨等の減災にも資する緑を残すまちづくりが進むことを期待している。
- モノレールが通ること自体はもちろん、皆の意見からつくられた提言書が実現していくのも楽しみである。
- この地域で生まれ育った人、他の地域から来た人など様々で、自分の視野になかった多様な意見を聞くことができ、貴重な機会だった。
- 活発な意見交換ができ、たいへん参考になった。
- No.4駅周辺で多世代交流、文化創生が進んでほしい。

問合わせ先 武蔵村山市 都市整備部 都市計画課 沿線まちづくり係

TEL:042-565-1111（内線 279）

ホームページ <https://www.city.musashimurayama.lg.jp/shisei/shisaku/machizukuri/1002063/1017864/1021288.html>

